

長野市の若者に関する計画の 策定について

令和8年2月13日
長野市こども未来部



FEEL NAGANO, BE NATURAL

この街で、わたしらしく生きる。長野市

目次

1	長野市の若者に関する計画策定に当たって	・・・	3
2	長野市の若者の状況	・・・	5
3	若者を取り巻く課題と必要な支援	・・・	10
4	計画の基本方針	・・・	15
5	施策の展開	・・・	16
6	施策体系	・・・	17
7	計画の進捗管理	・・・	18



1 長野市の若者に関する計画策定に当たって

(1) 計画策定の趣旨

- 本市の各部局においては、青年期の若者を支援する取組や修学・ライフデザイン、就労など、様々な分野で事業を実施しており、新たに若者に関する計画を策定することで、若者施策を体系的に整理し、ライフステージに応じた施策の展開につなげるとともに、子どもから若者、大人となっていく過程で必要な支援が途切れない体制をとれるよう、支援を充実するもの

(2) 計画の位置付け

- ① **こども基本法**では、市町村は、こども大綱 及び 都道府県こども計画を勘案して、**市町村こども計画**を作成するよう努めることとしている。

② こども大綱に掲げる施策と本市における計画

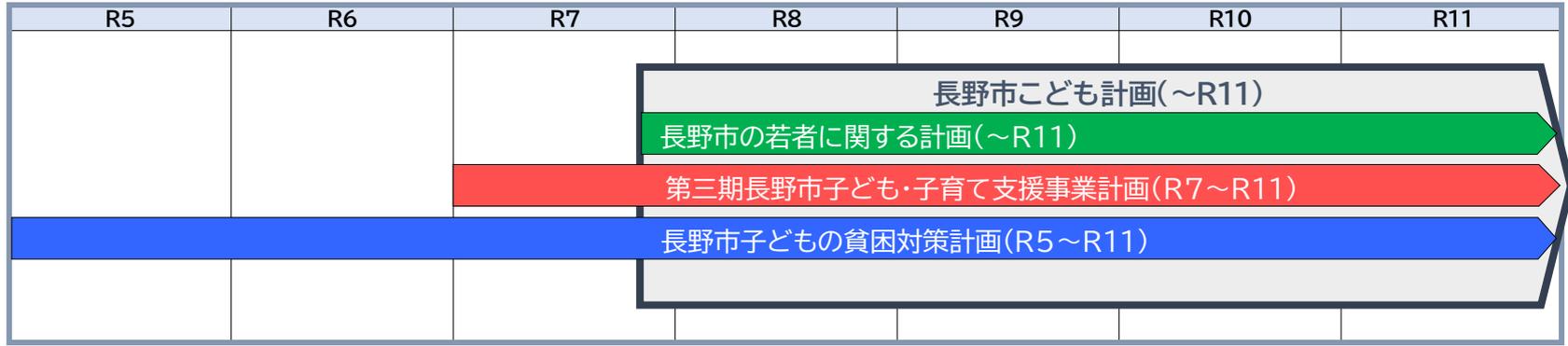
こども大綱に掲げる施策	本市における計画
◆ 少子化対策	第三期長野市子ども・子育て支援事業計画 (次世代育成支援対策行動計画を含む)
◆ 子どもの貧困対策の推進に関する施策	長野市子どもの貧困対策計画
◆ 子ども・若者育成支援推進施策	長野市の若者に関する計画

※ 三つの計画を併せて、こども基本法に基づく本市のこども計画として位置づけるもの

(3) 計画期間

- 本計画の計画期間は、令和8年2月から令和11年度までとする。

【こども計画を構成する三つの計画のイメージ】



(4) 計画の対象

- 本計画の対象は、おおむね18歳から39歳までの若者とする。

2 長野市の若者の状況

(1) アンケート調査

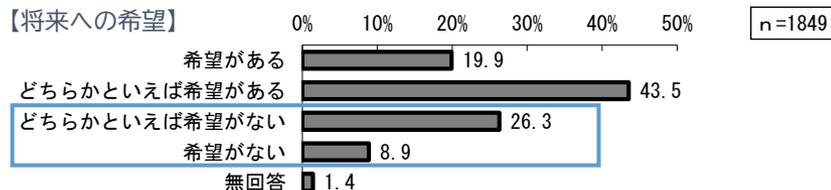
1) アンケート調査の概要

- ① 目的
若者に関する計画の策定に向け、若者の置かれている状況や考え等を把握するため実施
- ② 対象、方法
市の住民基本台帳において、満15歳(高校1年生)～39歳の方の中から、6,000人を無作為抽出、無記名方式
- ③ 実施期間
令和7年5月7日～5月20日
- ④ 回答状況
回答者数:1,849人、回収率:30.8%

2) アンケート調査結果 (主なものを抜粋)

① 将来への希望について

- 自分の将来に明るい希望を持っているかでは、35.2%が『希望がない』と回答した。



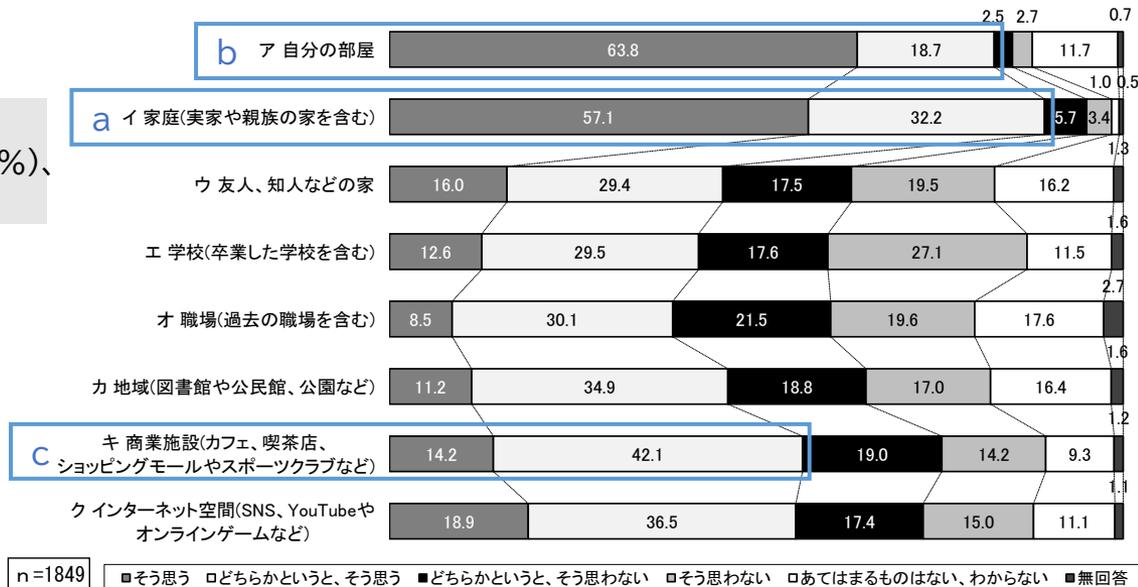
2 長野市の若者の状況

2) アンケート調査結果（主なものを抜粋）

② 居場所について

- 居場所と思う場所について、『そう思う』は、高い順に、a 家庭(89.3%)、b 自分の部屋(82.4%)、c 商業施設(56.3%)だった。

【居場所と思う場所】

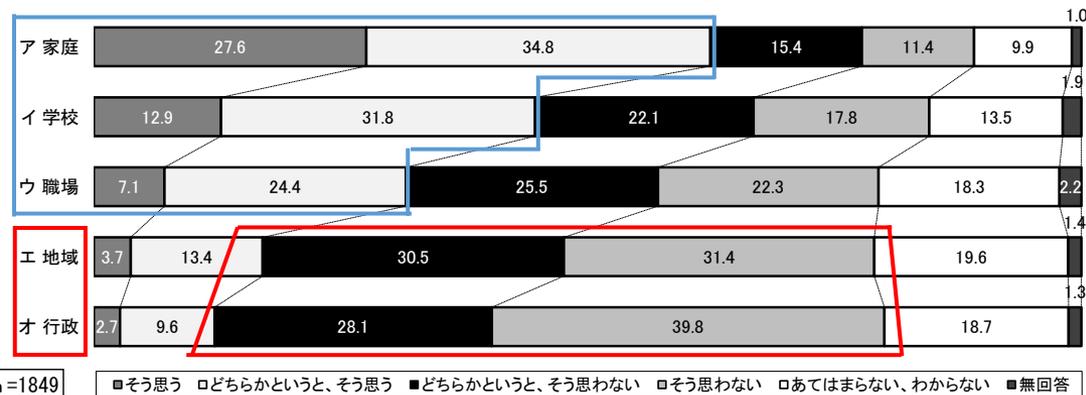


③ 意見の尊重について

- 若者の意見が尊重されていると思うかについて、『そう思う』は、高い順に、家庭(62.4%)、学校(44.7%)、職場(31.6%)だった。

- 一方、6割以上の人々が地域や行政で若者の意見が尊重されていると『思わない』と回答した。

【若者の意見が尊重されていると思う場所】

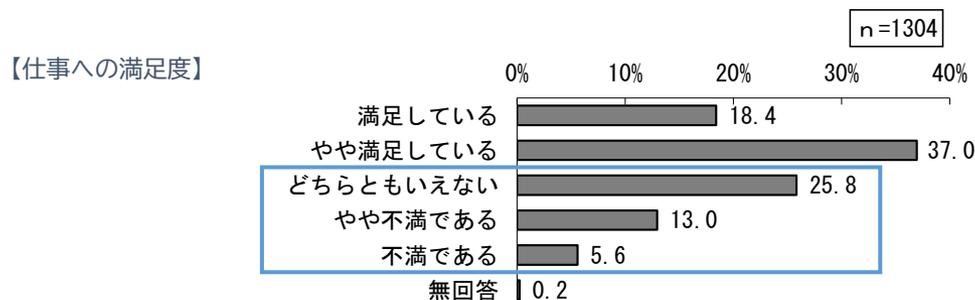


2 長野市の若者の状況

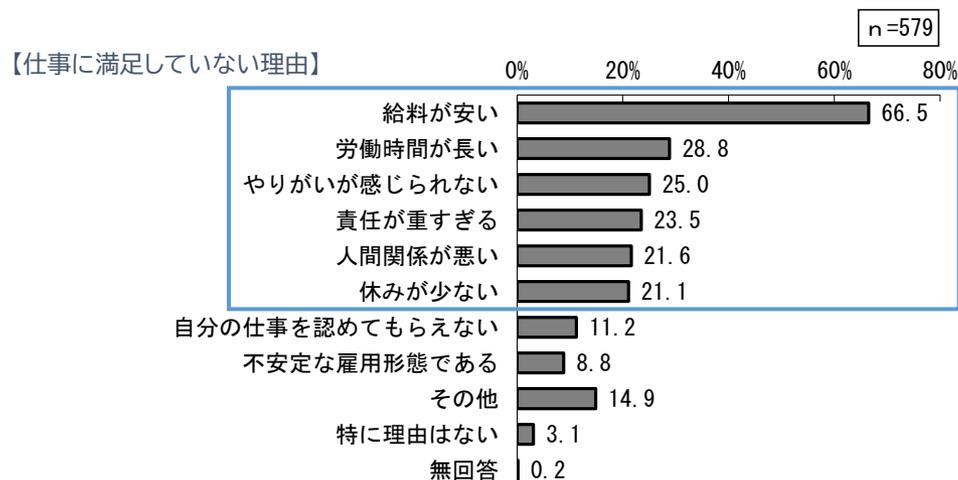
2) アンケート調査結果（主なものを抜粋）

④ 就労について

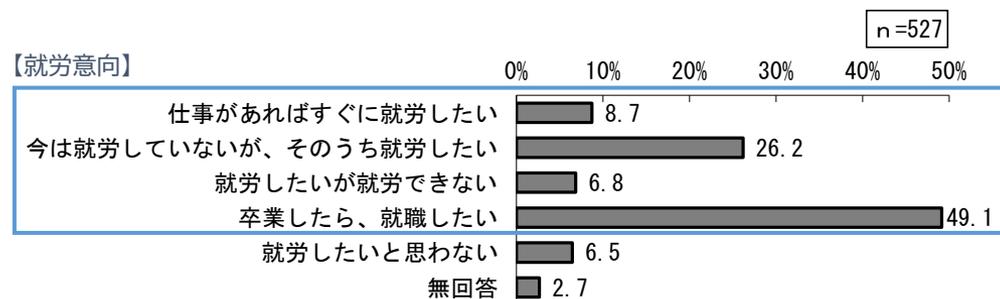
○ 現在の仕事に満足しているかでは、44.4%が『満足していない』と回答した。



○ 『満足していない』理由は、高い順に、給料が安い(66.5%)、労働時間が長い(28.8%)、やりがいを感じられない(25.0%)、責任が重すぎる(23.5%)、人間関係が悪い(21.6%)、休みが少ない(21.1%)だった。



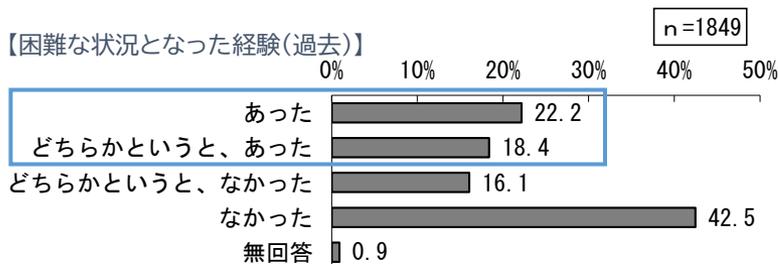
○ 現在、就労していない人の90.8%が『就労意向』を示した。



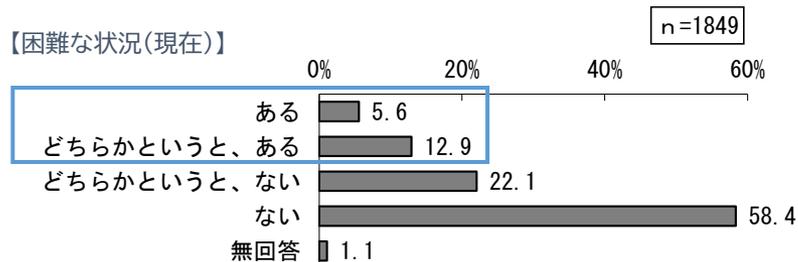
2) アンケート調査結果 (主なものを抜粋)

⑤ 困難な状況について

○ 社会生活や日常生活を円滑に送ることができなかった経験では、40.6%が『あった』と回答した。

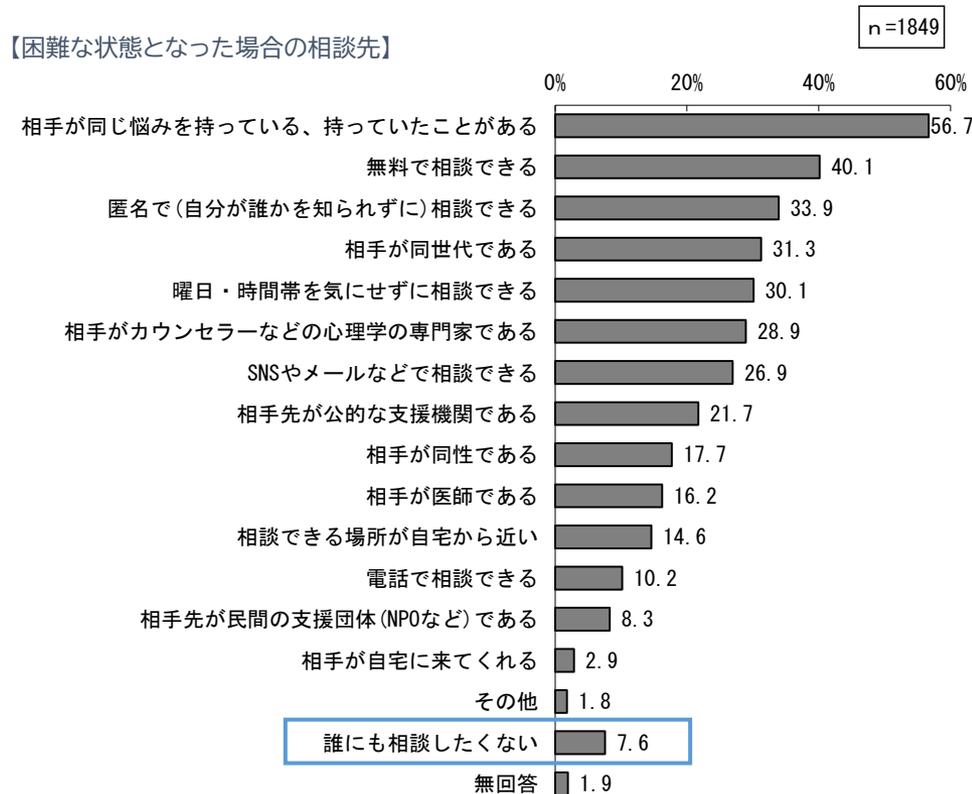


○ 現在、社会生活や日常生活を円滑に送れていない状況にあるかでは、18.5%が『ある』と回答した。



⑥ 相談先について

○ 社会生活や日常生活を円滑に送ることができない状態となったとしても、『誰にも相談したくない』と回答した人が7.6%いた。



(2) 若者や支援団体の意見聴取

1) 意見聴取の概要

計画策定に当たり、計画の当事者である若者及び若者を支援する関係団体等から、若者の状況や課題、施策に対する意見等を聴取

① 働く若者によるワークショップ

内容 若者の現状や希望の把握、市の若者施策の課題点の洗い出し、改善策の提案 など
対象・人数 40歳未満の若者14名

② 若者が対象となる支援等を実施する団体へのヒアリング

内容 若者の現状や支援状況、ニーズの把握、市の若者施策の課題点の洗い出し、改善の希望の聞き取り など
対象団体 5団体

③ 市長と学生の意見交換会

内容 若者の現状や希望の把握 など
対象・人数 大学等高等教育機関の学生15名

④ ライフデザインワークショップ

内容 若者の現状や希望するライフデザインの把握 など
対象・人数 16～30歳の若者(高校生～若手社会人)11名

(1) ライフプラン形成と実現に向けた支援について

● 課題等

① アンケート調査結果や統計データから見える課題

- ◆ 3割超の人が将来に明るい『希望がない』と回答
- ◆ 男女とも未婚率が上昇しているが、6割以上の人が結婚の意向を示している。

② ワークショップで出された意見

- ◆ 選択肢が増え多様化している社会の中で、どんな仕事があるか、どんなライフスタイルがあるかなど選択肢を知りたい。
- ◆ キャリアを考えると自然に晩婚化になる、結婚はライフプラン全体で考える必要がある。



● 必要な支援の方向性

- ◆ ライフプランについて考えたり、学んだ経験がある人ほど将来への希望を持てる傾向が見られることから、ライフプランについて考え、学ぶ機会の確保・充実が必要
- ◆ 結婚についてはライフプラン全体における選択肢の一つとして考える機会の提供が必要

(2) 学ぶ機会や居場所の確保・充実と社会参画の促進について

● 課題等

① アンケート調査結果から見える課題

- ◆ 「自分の部屋」「家庭」「インターネット空間」以外に居場所と感ずる場所がない人が一定数いる。
- ◆ 6割以上の方が地域や行政で若者の意見が尊重されていると『思わない』と回答

② ワークショップや意見交換会、支援団体から出された意見

- ◆ 進学に伴う教育費の負担が大きい、学校で学べないスキルを得る機会が必要
- ◆ 人とのつながりがたくさんある人になりたい、仕事や家庭だけでなく、サードプレイスも充実したまちに住みたい、地元に貢献したい。
- ◆ 福祉的要素や行政色が強いと抵抗感を持つ若者が多い、民間で多くの居場所を提供しているが分かりにくい、既存の場所を活用していけばよい。



● 必要な支援の方向性

- ◆ 経済状況等にかかわらず修学できる機会の提供が必要
- ◆ 若者が多様な学びや体験、主体的な活動ができる場の確保や若者に向けた情報発信に力を入れることが必要
- ◆ 様々な機会を通じて若者の意見を聞き、施策に反映していく仕組みや若者が地域や行政に参画しやすい環境づくりが必要

(3) 就労への支援について

● 課題等

① アンケート調査結果から見える課題

- ◆ 現在、就労していない人の約9割が就労意向を示している。
- ◆ 現在の仕事に『満足していない人』が4割以上おり、その理由は「労働時間が長い」が約3割、「休みが少ない」が約2割

② ワークショップで出された意見

- ◆ 起業家精神を持つ若者が少ない、地元企業を若者に知ってもらう機会が少ない、一つの企業に長く勤めて貢献することに対する支援も必要



● 必要な支援の方向性

- ◆ 就職に関する情報や地元企業について知る機会の提供が必要
- ◆ 様々な就労体験の場やマッチングの機会の充実、起業への支援など、本人が持つ能力を理解し、生かすための後押しが必要

(4) 若者やその家族からの相談体制の充実と課題解決に向けた支援について

● 課題等

① アンケート調査結果や統計データから見える課題

- ◆ 社会生活や日常生活を円滑に送れない経験がある人は約4割、現在、そのような状況にある人は2割弱おり、そうした人は自己肯定感や有用感が低く、将来に希望を持ちにくい傾向が見られる。
- ◆ 社会生活や日常生活を円滑に送れない状態になっても誰にも相談したくないと考える人が1割弱いる。
- ◆ ひきこもりやケアラー状態の人は一定数いるが、周囲の人に相談できていないなど潜在化しているケースも危惧される。
- ◆ 自殺者数は減少傾向にあるものの、自殺死亡率は横ばいで推移しているほか、男性20～30歳代の自殺死亡率は全国と比べて高くなっている。

② 支援団体から出された意見

- ◆ 総合相談窓口のような拠点がハブとなり、個別の支援先につながるとよい、拠点には専門家を配置してほしい、本人だけでなく家族支援も重要



● 必要な支援の方向性

- ◆ 困難な状況にある人の実態把握を進めることや若者やその家族が相談しやすい場を提供することが必要
- ◆ 個々の課題解決や社会参加を後押しできるよう、適切な支援機関につなぐ包括的な支援体制が必要

(5) 関係機関との連携や情報発信について

● 課題等

① アンケート調査結果から見える課題

- ◆ 制度があっても知らないと利用できないことから、若者が調べやすい形での情報提供が求められている。

② 支援団体から出された意見

- ◆ 支援者同士で情報共有などの連携がとれる仕組みづくりが必要、制度があっても使えたと知らない若者も多いため情報の見える化が必要、必要とする人に支援の情報が届いていないこともあり周知が課題



● 必要な支援の方向性

- ◆ 関係機関と連携し、それぞれの強みや専門性、ネットワークなどを生かした包括的な体制を構築することが必要
- ◆ 支援を必要とする若者やその家族に必要な情報が届くよう情報を整理し、SNSやウェブサイトなど若者がアクセスしやすい媒体を通じて、積極的な情報発信をすることが必要

(1) 基本理念

若者が社会の一員として、多様な価値観や個性が尊重され、
安心して自らの未来を描けるまちの実現

若者が、社会や地域の中で人とつながり支え合うことで豊かな人間性を育み、一人ひとりが、それぞれの価値観や個性を大切にしながら安心して未来を描き、自分らしく幸せに暮らすことへの希望が持てるまちの実現を目指す。

(2) 基本的な視点

① 若者の権利の保障と最善の利益

- 若者を権利の主体として認識する。
- 若者の権利を保障する。
- 若者の最善の利益を第一に考えた取組を推進する。

② 若者のウェルビーイングの向上

- 将来にわたり若者が身体的・精神的・社会的に幸せな状態(ウェルビーイング)で暮らしていくことを支える。

③ 若者の多様な価値観や考え方の尊重

- 若者の多様な価値観や考え方を前提とする。
- 若者の人格や個性を尊重する。
- 若者が自分らしく健やかに成長していけるよう支える。

④ 若者の意見の尊重と施策への反映

- 若者の意見をしっかり聞く。
- 若者の意見を尊重し、市の施策に反映する。

施策1 ライフプラン形成と実現に向けた支援

- 若者が明るい未来をイメージしてライフデザインができるよう、参考となる情報や将来を考える機会を提供する。
- 若者がそれぞれの希望の実現に向かって歩みを進められるよう支援する。

施策2 学ぶ機会や居場所の確保・充実と社会参画の促進

- 若者が経済状況等にかかわらず修学できる機会を提供する。
- 若者が自分に合った居場所を見つけ、多様な学びや体験、交流を通じて地域や人とのつながりが持てるよう支援する。
- 様々な場面において、若者の主体的な行動や地域社会への参画を促進する。

施策3 就労への支援

- 若者が経済的に自立し、将来に見通しを持つことができるよう、就職に関する情報や企業とのマッチングの機会を提供するとともに、起業への支援をする。
- 若者がそれぞれの希望に沿った柔軟で多様な働き方ができる環境づくりを促進する。

施策4 若者やその家族のための相談体制の充実と課題解決に向けた支援

- 若者やその家族が気軽に相談できる場を提供する。
- 個々の課題や不安、困りごとに寄り添い、課題解決に向け、関係機関や専門機関と連携して包括的に支援する。

施策5 関係機関との連携や情報発信

- 若者が適切な支援先につながれるよう、関係機関と連携し、それぞれの強みや専門性、ネットワークなどを生かした包括的な体制を構築する。
- 支援を必要とする若者やその家族に必要な情報が届くよう、SNSやウェブサイト、広報誌など、様々な機会・媒体を通じ、積極的かつ継続的に情報発信をする。

基本理念	基本的な視点	施策	主な取組
<p>若者が社会の一員として、安心して自らの未来を描けるまちの実現</p> <p>多様な価値観や個性が尊重され、</p>	<p>若者の権利の保障と最善の利益</p>	<p>1 ライフプラン形成と実現に向けた支援</p>	<ul style="list-style-type: none"> ◆ ライフデザイン形成支援 ◆ プレコンセプションケア促進 ◆ 若手IT人材育成事業 ◆ 高校生アントレセミナー ◆ 男女共同参画セミナー ◆ 男女共同参画センター講座
	<p>若者のウェルビーイングの向上</p>	<p>2 学ぶ機会や居場所の確保・充実と社会参画の促進</p>	<ul style="list-style-type: none"> ◆ 若者の居場所づくり ◆ ながの若者チャレンジ応援事業 ◆ ながのまちづくり活動支援事業 ◆ 奨学資金貸付事業 ◆ 生活困窮者学習支援事業 ◆ シニアリーダーズクラブ
	<p>若者の多様な価値観や考え方の尊重</p>	<p>3 就労への支援</p>	<ul style="list-style-type: none"> ◆ 長野地域若者就職促進事業 ◆ スタートアップ起業支援事業 ◆ 創業支援事業 ◆ スタートアップ支援補助金 ◆ ワーク・ライフ・バランスの普及啓発等 ◆ 職業相談
	<p>若者の意見の尊重と施策への反映</p>	<p>4 若者やその家族のための相談体制の充実と課題解決に向けた支援</p>	<ul style="list-style-type: none"> ◆ こども総合支援センター「あのえっと」 ◆ ひきこもり支援事業 ◆ 重層的支援体制整備事業 ◆ 若者ケアラー支援 ◆ 生活困窮者自立相談支援事業 ◆ 若者の自殺予防やこころの健康に関する講座等
		<p>5 関係機関との連携や情報発信</p>	<ul style="list-style-type: none"> ◆ 関係機関との連携・包括的な体制整備 ◆ 情報発信

(1) 進捗管理の方法

- 活動指標（参加者数などの実績）を用いて各取組の毎年度の実施状況を把握し、施策や取組の改善等につなげるとともに、計画の最終年度に向けては若者の実態把握調査を実施し、成果指標に基づき施策の効果や成果を確認する。
- 庁内関係所属で組織される長野市こども計画策定委員会において、それぞれの取組の実施状況の確認や施策の推進について協議する。
- 長野市社会福祉審議会児童福祉専門分科会において、取組の実施状況を点検、評価して結果を公表し、施策や取組の改善等につなげる。

(2) 成果指標一覧

施策	内容	基準値 (R7)	目標 (R10)
1 ライフプラン形成と実現に向けた支援	ライフプランについて考えたことがある若者の割合	62.9%	割合の増加
2 学ぶ機会や居場所の確保・充実と社会参画の促進	地域や行政において、若者の意見が尊重されていると思う若者の割合	地域 17.1% 行政 12.3%	割合の増加
3 就労への支援	現在の仕事に満足している若者の割合	55.4%	割合の増加
4 若者やその家族のための相談体制の充実と課題解決に向けた支援	社会生活や日常生活を円滑に送ることができない状態となったとき、家族や知り合い以外、誰にも相談したくないと思う若者の割合	7.6%	割合の減少
5 関係機関との連携や情報発信	市が若者向けに発信する情報が役に立つと思う若者の割合	—	—